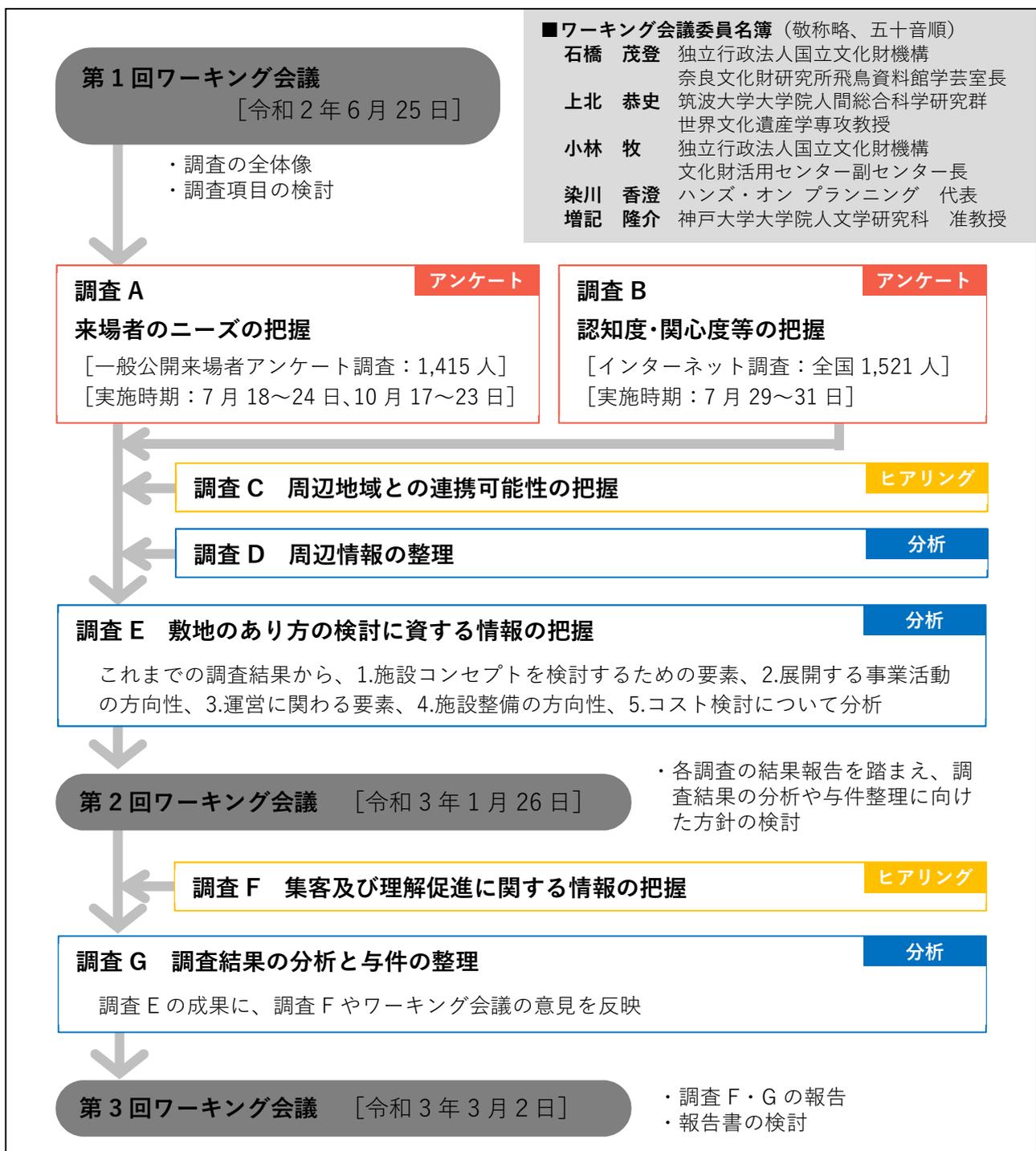


高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置に係る基礎調査報告書 【概要】

■本調査の目的

- 国宝高松塚古墳壁画は、恒久保存対策方針のもと、平成19年から仮設修理施設にて進めてきた修理作業が、令和元年度に完了した。そこで、今後の保存・活用のための施設の設置に向け、高松塚古墳や古墳壁画を巡る周辺環境や目指すべき将来像、そのために考え得る取組等について幅広く情報を収集した。
- 本調査の成果は非常に多岐にわたるものであるため、今後、国や奈良県、明日香村、その他関係機関等が連携しながら、具体策を検討していくことが望まれる。

■調査・分析体系



1. 施設コンセプトを検討するための要素

1-1. 新施設に望まれる役割

○高松塚古墳壁画・石材等の保管を行い、その公開活用並びにそれらをテーマとした展示活動等を行う。また、周辺環境の将来像として、村内の文化財や国営飛鳥歴史公園、周辺地域の博物館や研究機関等の連携を通して、飛鳥時代における明日香村の歴史全般をわかりやすく発信できる仕組みの構築が望まれる。

○新施設に対しては、その実現に向けて、以下の役割を担うことが期待されている。

①高松塚古墳・古墳壁画をテーマにした展示・学習施設

- ・古墳壁画実物の公開を行い、その歴史的価値や魅力などを伝える施設
- ・古墳壁画実物に加え、充実した展示や解説があり、わかりやすく発信力の高い施設

②交通の要衝となる近鉄・飛鳥駅からの来訪者に対する導入拠点

- ・飛鳥時代における明日香村の歴史全般に関するガイダンス、回遊促進
- ・高松塚古墳を中心とした明日香村村内に点在する古墳（キトラ古墳、中尾山古墳、石舞台古墳等）の中核施設として、古墳の紹介・解説に加え、明日香村の歴史文化の理解や回遊の促進などの文化観光に寄与



1-2. 利用者像

①ターゲット層（50歳以上）への確実なアプローチ

- ・ニーズをとらえたテーマの展示やイベント
- ・遺跡・史跡めぐりや散策・ウォーキング等のプログラム等を提供

②無関心層（女性、若い世代）の興味・関心の拡大

- ・興味・関心を高める取組（マンガ・アニメ・ゲームとの連携等）

③教育旅行（小学生～高校生等）への対応

- ・飛鳥時代における明日香村の歴史に加え、明日香村の自然や祭礼などのニーズに合わせたプログラム等を提供

1-3. 古墳壁画の魅力

○古墳壁画の新たな魅力の探究と発信

- ・古墳壁画の美術的な魅力や技術、古代衣装等の側面からの調査研究
- ・大陸との交流・文化・風習・宗教・暮らしなど、古墳と古墳壁画の背景を探る調査研究
- ・調査研究成果を活かした効果的な情報発信による関心層の拡大



東壁青龍



西壁女子群像

2. 展開する事業活動の方向性

2-1. 展示

(1) 展示の方向性

- 修理した壁画の保管・公開：実物を見る機会を提供するための「壁画・石材保管室」
- 古墳・古墳壁画に関わる常設展示、企画展示の実施：古墳と壁画にフォーカスした常設展示、幅広いテーマの企画展
- 明日香地域全体を俯瞰したガイダンス展示：高松塚古墳・古墳壁画をきっかけにして明日香村全体の歴史資産への理解や、周辺の歴史資産との関連から高松塚古墳へのより一層の理解を深めることのできる展示機能の整備、周辺施設との役割分担を踏まえた必要な機能の整備

(2) 展示テーマ

【常設展示】・古墳壁画の展示演出

- ・壁画を取り出す発掘調査で明らかになった、古墳築造の様子を伝える資料の保管・公開
- ・壁画の発見から現在に至るまでのストーリーやエピソードの紹介
- ・出土資料をテーマにした展示



墳丘断面はぎ取り標本（飛鳥資料館）

【企画展示】・高松塚古墳・古墳壁画や幅広いテーマで展開

- ・外部の研究者や学芸員による調査研究プロジェクトの成果にもとづく展示

【明日香地域全体を俯瞰したガイダンス展示】

- ・古墳を通して日本と世界の文化交流を紹介する展示
- ・かつて明日香村で行われていた国際交流を感じ取れる展示
- ・教育旅行に対応した展示
- ・日本遺産等と連携し、人物・歴史・ストーリーを組み合わせた展示
- ・歴史的風土や豊かな自然など、明日香地域の魅力を印象づける展示

【その他、展示に対する要件】子どもたちが楽しめる仕掛け、地震痕跡資料を活用した展示 等

2-2. 古墳壁画の展示

(1) 古墳壁画の展示・公開条件

- これまでの知見を生かし、高松塚古墳壁画の保管に最適な環境の実現
 - ・壁画・石材にとってリスクが高い移動をできる限り回避するよう、保管と公開を同一の空間で実施、メンテナンス機能の併設
 - ・キトラ古墳壁画保存管理施設や高松塚古墳壁画仮設修理施設等での運用を参考にした、厳密な温湿度管理や虫菌害対策

(2) 古墳壁画の展示演出手法

- ①石室内部の空間を原寸再現し、体験する
- ②VRなどの技術で石室内部の空間を再現し、体感する
- ③高精細画像などで壁画の細部を拡大して見る、原寸大の壁画レプリカをじっくり見学する
- ④展示解説（ガイドによる展示解説、詳しい解説付きの映像、教育コンテンツの開発 等）

2-3. 調査・研究

- 高松塚古墳・古墳壁画の調査・研究ネットワークの体制整備
 - ・国内外の研究者や保存に関わる専門家との交流
 - ・壁画の研究者の育成促進のための制度構築

2-4. 教育普及

○周辺施設や既存の活動と連携した取組

- ・国営飛鳥歴史公園で展開している体験プログラムと連携した、新たな体験プログラムの開発
- ・既存のボランティアガイド（飛鳥里山クラブ、観光ボランティアガイド）と連携した、自然や遺跡、国営飛鳥歴史公園を巡る新たなガイドツアーの開発
- ・周辺施設や地域資源と連携した、教育旅行向け学習プログラムの開発
- ・地域文化の発信にもつながる、地域独自のプログラムの展開

2-5. 利用者サービス

○ミュージアムショップの設置

○飲食機能の充実

- ・周辺の飲食店に関する情報提供、周辺の飲食店と連携した弁当販売
- ・学校団体などが昼食をとれるスペース、フードトラックが止められる屋外スペースを整備

○時代に即した手法による多言語対応の充実

3. 運営に関わる要素

3-1. 連携体制

○周辺環境の将来像として、奈良県、明日香村や関係する団体の活動と連携した、明日香の歴史の価値を発信するための組織や仕組みを構築し、地域全体における回遊性の向上や発信力の強化が望まれる。

○新施設に対しては、その実現に向けて、「明日香まると博物館」等への参画、特定のテーマや活動に関する個別の連携体制の構築(展示、イベント、入場料金等)が望まれる。

3-2. 情報発信

○古墳への興味・関心、高松塚古墳壁画の認知度の向上

- ・認知度の低い属性（若い世代、女性、北海道・東北の居住者等）に向けた情報発信
- ・「マンガ・アニメ・ゲーム」、「散策・ウォーキング」に関連する魅力的なコンテンツ

○SNSによる情報発信の強化

- ・比較的認知度の低い属性において効果を発揮する情報媒体として、また、インバウンド観光の推進に向け、SNSによる情報発信力を強化

○プレスリリースの重視

- ・情報媒体として効果が高い「新聞」「テレビ」での発信を目指し、積極的なプレスリリースを展開
- ・メディアの特性やターゲットにあわせた情報発信を行う。ターゲットとしては、「全国の読者向け」「古代史ファン向け」「フォトジェニックな旅に興味のある女性向け」などを設定

3-3. 回遊促進

○周辺環境の将来像として、駐車場の確保、地域内移動手段の確保・利便性向上、教育旅行の拡大に向けた対策が望まれる。

○新施設においては、「駐車場、駐輪設備の確保」「村内交通機関との連携」（キトラ古墳と高松塚古墳とをつなぐ交通手段や手法）などが望まれる。

4. 施設機能の方向性

4-1. 機能

○新施設に備える機能として考え得るものは、以下のとおり。

①壁画・石材の保管	<ul style="list-style-type: none">・壁画・石材保管室（メンテナンススペース、見学スペースを併設）・トラックヤード・壁画・石材保管室専用機械室 等
②高松塚古墳の採集資料の収蔵	<ul style="list-style-type: none">・収蔵庫 等
③高松塚古墳・古墳壁画の詳細展示、 周辺の古墳に関するガイダンス展示	<ul style="list-style-type: none">・常設展示室 等
④最新の調査研究成果の展示、国内外の 古墳壁画の紹介や壁画の価値や魅力 の発信など幅広いテーマの展示	<ul style="list-style-type: none">・企画展示室 等
⑤古墳や古墳壁画に関する調査・研究	<ul style="list-style-type: none">・調査研究室・収蔵庫・ワークショップルーム 等
⑥飛鳥時代における明日香村の歴史全 般のガイダンス	<ul style="list-style-type: none">・ガイダンス展示・オリエンテーションルーム 等
⑦利用者サービス、学校団体の受入	<ul style="list-style-type: none">・昼食場所の提供・ミュージアムショップ・トイレ 等
⑧上記機能の管理運営	<ul style="list-style-type: none">・事務室・エントランスホール・廊下・機械室 等

なお、関係機関との連携の上で該当機能を実現する。

4-2. 敷地

○特別史跡高松塚古墳の近傍地の規制状況を踏まえ、相対的に規制が緩やかな区域での整備が現実的である。

○古墳からの眺望、古墳への眺望の確保、また、古墳周辺にある地下遺構の保全のため、古墳に近い場所での整備は避けるべき。

5. コスト検討

○新施設のコスト検討にあたっては、整備費や運営費ともに、求められる機能や水準を十分満たすための検討を進める。キトラ古墳壁画体験館 四神の館や文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設の整備費や運営費はひとつの参考となるが、当時の消費税率や物価等の変動、求められる内容が全く同じはないということ等は十分配慮する必要がある。